

資料一覽

資料1	環境保健センター（環境部門）の今後のあり方検討報告書の概要	1
資料2	組織体制の推移	2
資料3	主な施設・システム・機器一覽	3
資料4	研修指導の実績	6
資料5	年報掲載論文一覽	8
資料6	学会誌掲載課題一覽	11
資料7	報告書等一覽	13
資料8	学会発表課題一覽	15
資料9	平成28～30年度に実施した調査研究に係る事後評価結果	18
資料10	令和元～3年度に実施する調査研究に係る事前評価結果	25
資料11	他の試験研究機関等との連携	31
資料12	職員研修の実績	35
資料13	講師派遣の実績	41
資料14	イベント出展、所内見学の実績	44

環境保健センター（環境部門）の今後のあり方検討報告書の概要

平成22年度に、本庁関係課、県民局及び当センターで「環境保健センターのあり方検討プロジェクトチーム会議」を設置し、センターの目指すべき姿について検討を行った。また、センター内では若手を中心としたワーキンググループを設け、若手職員の意見を集約した。

その結果、環境保健センターの目指すべき姿と担うべき機能を次のとおり整理し、今後、あり方報告の実践と常なる検証を行い、改革を継続することとなった。

（1）センターのあるべき姿

県民の安全・安心を科学的・技術的側面から保障する機関

- 環境汚染等に対する危機管理体制を構築し、緊急事態に迅速に対応できる機能
- 行政からの要望を受け、科学的・技術的に支援するコンサルティング機能
- 地域の環境に関する長期間蓄積したデータや研究成果等の情報発信機能
- 高い科学性・専門性に根ざし、行政への政策提言を行うシンクタンク機能

（2）主な検討・提言内容

①試験検査体制の強化

- ・直営実施または強化すべき試験検査の選定（立入検査能力の強化）
- ・調査研究検討協議会の拡大（試験検査の検討、ワーキンググループの活用）

②調査研究体制の強化

- ・調査研究検討協議会の強化（ワーキンググループの活用）
- ・行政施策に密着した課題の選定、研究成果を行政施策に反映
- ・成果の活用とフィードバック（公開発表会の開催、環境学習での活用）
- ・他県、国、大学、民間企業等との連携、外部資金の活用

③技術力と現場感覚を維持するための方策

- ・技術力の維持と向上と技術継承の強化
- ・教育・研修の充実強化、調査研究・開発能力の向上

④人材育成及び組織体制の充実

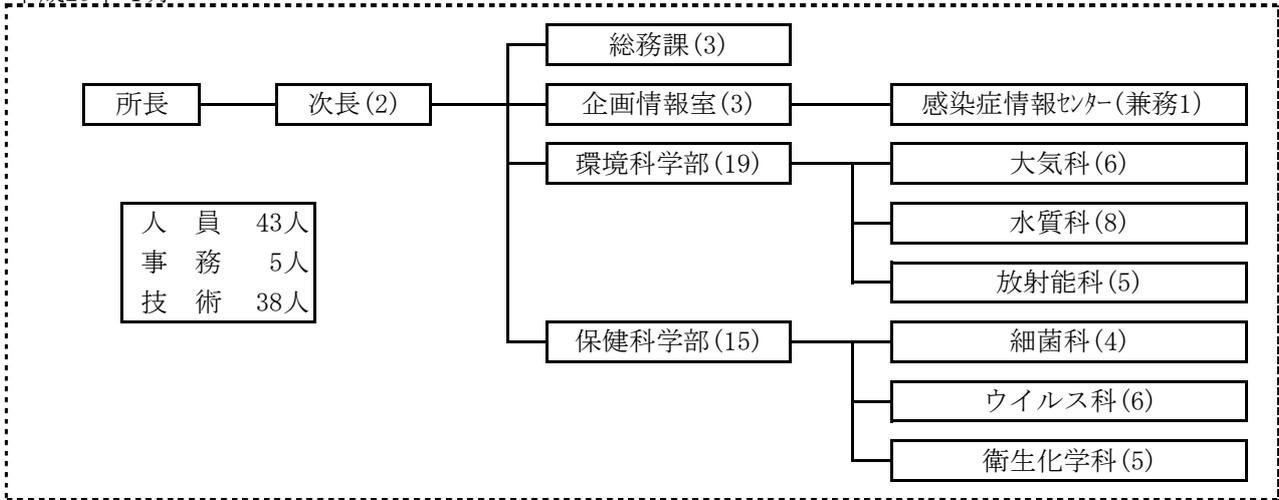
- ・適切な人事異動・交流の実行
- ・組織体制の充実、マトリックス型組織の活用等

⑤情報発信の強化等

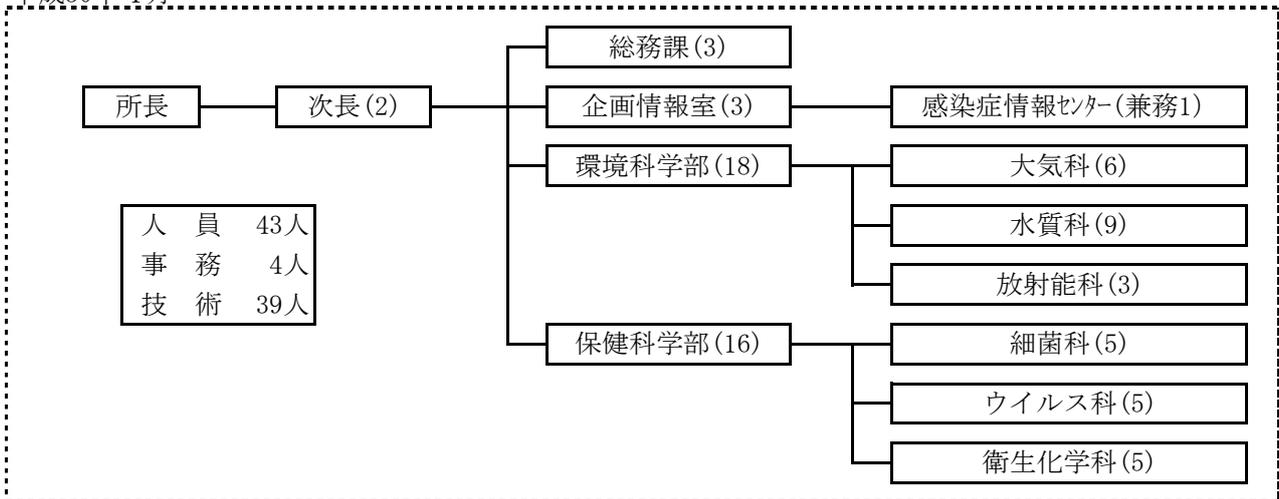
- ・長期間蓄積したデータや研究成果等を県民や行政等に情報発信し、開かれた環境保健センターを創造

組織体制の推移

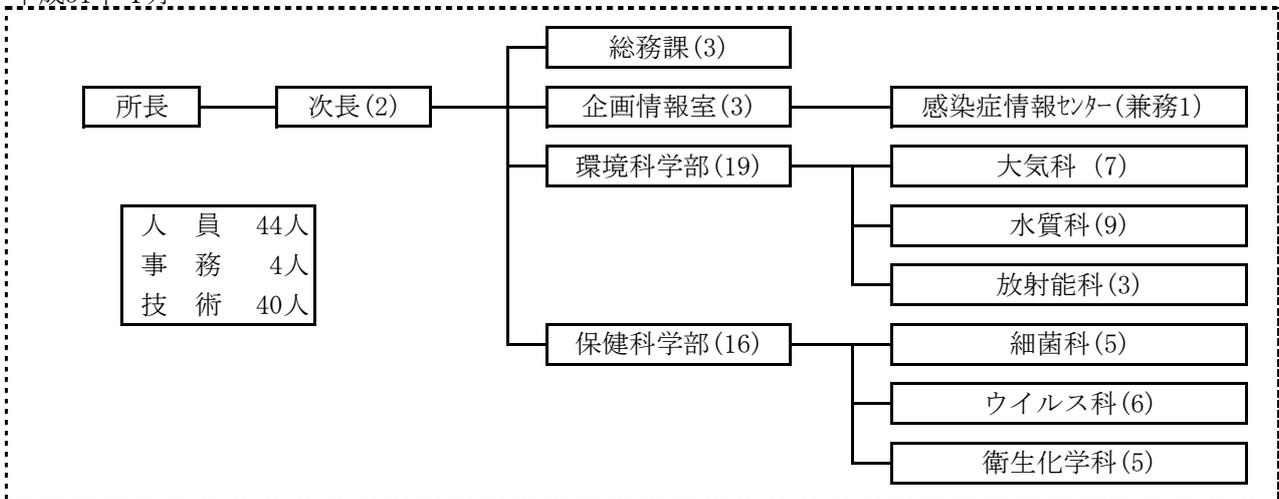
平成29年4月



平成30年4月



平成31年4月



※人員には再任用職員・研修生を含む。

主な施設・システム・機器一覧

(令和2年8月現在)

主な施設・システム

整理番号	名称	用途	整備年度
1	大気汚染監視システム	環境大気の監視測定（常時監視）	H29
2	環境大気観測局（24局）	環境大気の監視測定（常時監視）	S48
3	超微量化学物質分析施設(C3施設)	環境・食品中の有害化学物質の試験検査、調査研究	H13
4	環境放射線等監視システム	環境放射線等の監視測定（常時監視）	H22
5	放射線観測局（3局）	環境放射線等の監視測定（常時監視）	S54
6	安全検査施設（BSL3施設）	細菌・ウイルスの試験検査、調査研究	S63

主な機器

整理番号	名称	用途	整備年度
1	原子吸光分析装置（水銀専用）（1）	有害大気汚染物質の試験検査、調査研究	H12
2	高速液体クロマトグラフ装置	有害大気汚染物質の試験検査、調査研究	H25
3	ガスクロマトグラフ質量分析装置	有害大気汚染物質の試験検査、調査研究	H26
4	キャニスター濃縮分析装置（3種）	有害大気汚染物質の試験検査、調査研究	H27
5	ガスクロマトグラフ質量分析装置（VOC用）	有害大気汚染物質の試験検査、調査研究	H28
6	ウルトラマイクロ天秤	有害大気汚染物質の試験検査、調査研究	H28
7	原子吸光分析装置（水銀専用）（2）	有害大気汚染物質の試験検査、調査研究	H29
8	誘導結合プラズマ質量分析装置	有害大気汚染物質の試験検査、調査研究	H29
9	マイクロウェーブ試料分解装置	有害大気汚染物質の試験検査、調査研究	H30
10	オートダストサンプラー	工場排ガスの試験検査	H19
11	窒素酸化物測定装置	工場排ガスの試験検査	H23
12	炭素分析装置	大気汚染物質の調査研究	H26
13	蛍光X線分析システム（X線回折装置、蛍光X線分析装置）	アスベスト検査	H26
14	走査型電子顕微鏡	アスベスト検査	H26
15	航空機騒音測定装置	航空機騒音測定	H24
16	総窒素分析装置	排水の試験検査、水質汚濁事象原因究明	H24
17	イオンクロマトグラフ装置	排水の試験検査、水質汚濁事象原因究明	H25
18	オートアナライザー	排水の試験検査、調査研究	H27
19	高速液体クロマトグラフ質量分析装置	排水の試験検査、水質汚濁事象原因究明	H30
20	原子吸光分析装置	排水の試験検査、水質汚濁事象原因究明	R1
21	ECD付ガスクロマトグラフ装置	有害化学物質の試験検査、調査研究	H14
22	高速溶媒抽出装置	有害化学物質の試験検査、調査研究	H27

整理番号	名称	用途	整備年度
23	ヘッドスペースガスクロマトグラフ質量分析装置	有害化学物質の試験検査、調査研究	H30
24	高分解能ガスクロマトグラフ質量分析装置	有害化学物質の試験検査、調査研究	R2
25	総炭素分析装置	公共用水域水質検査、調査研究	R1
26	マイクロウェーブ試料分解装置	環境放射線等の監視測定	H12
27	MCA付きサーベイメータ	環境放射線等の監視測定	H16
28	ガラス線量計読取装置	環境放射線等の監視測定	H17
29	α線波高分析装置	環境放射線等の監視測定	H17
30	ふっ素蒸留装置	環境放射線等の監視測定	H17
31	高線量対応γ線測定装置	環境放射線等の監視測定	H18
32	可搬型ラドンモニタリングシステム	環境放射線等の監視測定	H19
33	中性子測定装置	環境放射線等の監視測定	H22
34	液体シンチレーションカウンタ	環境放射線等の監視測定	H23
35	γ線波高分析装置	環境放射線等の監視測定	H24
36	誘導結合プラズマ質量分析装置	環境放射線等の監視測定	H24
37	超純水製造装置	環境放射線等の監視測定	H24
38	気象観測装置	環境放射線等の監視測定	H25
39	灰化炉	環境放射線等の監視測定	H26
40	β線自動測定装置	環境放射線等の監視測定	H26
41	低バックグラウンドα線自動測定装置	環境放射線等の監視測定	H26
42	大気中ふっ素自動測定装置	環境放射線等の監視測定	H28
43	放射線測定装置（2局）	環境放射線等の監視測定	H30
44	放射線測定装置（1局）	環境放射線等の監視測定	R1
45	モニタリング業務データ処理システム	環境放射線等の監視測定	R1
46	モニタリングポスト	環境放射能水準調査(原子力規制庁委託)	H23
47	ゲルマニウム半導体核種分析装置（1）	環境放射能水準調査(原子力規制庁委託)	H23
48	ゲルマニウム半導体核種分析装置（2）	環境放射能水準調査(原子力規制庁委託)	H27
49	モニタリングポスト	環境放射能水準調査(原子力規制庁委託)	R1
50	高速冷却遠心機	細菌等の試験検査、調査研究	H2
51	パルスフィールドゲル電気泳動装置	細菌等の試験検査、調査研究	H16
52	自動免疫蛍光測定装置	細菌等の試験検査、調査研究	H17
53	PCR装置	細菌等の試験検査、調査研究	H21
54	冷凍装置（-80度）	細菌菌株保存	H27

整理番号	名 称	用 途	整備年度
55	高速遠心機	ウイルス等の試験検査、調査研究	S63
56	透過型電子顕微鏡	ウイルス等の試験検査、調査研究	H3
57	超遠心機（1）	ウイルス等の試験検査、調査研究	H6
58	マイクロプレートリーダー	ウイルス等の試験検査、調査研究	H13
59	PCR装置	ウイルス等の試験検査、調査研究	H19
60	DNAシーケンサー	ウイルス等の試験検査、調査研究	H21
61	蛍光顕微鏡(落射蛍光顕微鏡)	ウイルス等の試験検査、調査研究	H21
62	卓上超高速遠心機	ウイルス等の試験検査、調査研究	H23
63	超遠心機（2）	ウイルス等の試験検査、調査研究	H26
64	リアルタイムPCR装置（1）	ウイルス等の試験検査、調査研究	R1
65	リアルタイムPCR装置（2）	ウイルス等の試験検査、調査研究	R1
66	リアルタイムPCR装置（3）	ウイルス等の試験検査、調査研究	R2
67	液体クロマトグラフタンデム型質量分析装置	食品中残留農薬検査、食品中残留動物用医薬品検査、健康食品検査、調査研究	H17
68	超純水製造装置	食品中残留農薬検査、家庭用品検査、医薬品検査、調査研究	H22
69	ガスクロマトグラフ質量分析装置	食品中残留農薬検査	H29
70	ガスクロマトグラフ質量分析装置	食品中有害化学物質モニタリング調査、調査研究	H21
71	リアルタイムPCR装置	遺伝子組換え食品の試験検査、調査研究	H28
72	高速液体クロマトグラフ	医薬品の試験検査	H27
73	溶出試験器	医薬品の試験検査	H28

研修指導の実績

平成 29 年度

整理 番号	年 月 日	内 容	対 象	人数	担 当 科
1	通年	騒音・振動測定技術指導	行政担当者	9	大気科
2	H29. 4. 7, 10	有害大気汚染物質モニタリングサンプリング 実習	行政担当者	3	大気科
3	H29. 4. 26	水質事故時の対応	行政担当者	48	水質科
4	H29. 5. 17※	水質事故時の対応	行政担当者	75	水質科
5	H29. 6. 2	水質検査技術指導（クロスチェック検討会）	行政担当者 関係団体職員	24	水質科
6	H29. 6. 6～7, 7. 5	岡山大学医学部公衆衛生学学外実習 細菌検査実習、電子顕微鏡実習、アレルギー物 質検査実習等	大学生	8	細菌科 ウイルス科 衛生化学科
7	H29. 7. 12	病原体輸送に係る研修会	行政担当者	30	ウイルス科
8	H29. 7. 20	水質汚濁事象等危機管理初動対応講習・実習	行政担当者	61	水質科
9	H29. 8. 21～25	所内見学、検査実習（水質検査、コロニー観察、 遺伝子組換え食品検査、アレルギー物質検査）	専門学校生	3	各 科
10	H29. 8. 24	新型インフルエンザ等発生時の患者移送に関 する講習・実習	消防機関等職員 行政担当者	28	所 長
11	H29. 10. 2	わが国における性感染症の発生動向の現状、並 びに梅毒の急増等の新たな課題への対応	行政担当者	約 30	所 長
12	H29. 11. 10	新型インフルエンザ等発生時の患者移送に関 する講習	消防機関等職員 行政担当者	21	所 長
13	H30. 1. 18～19	カルバペネム耐性腸内細菌検査研修	行政担当者	3	細菌科
14	H30. 2. 13～14	カルバペネム耐性腸内細菌検査研修	行政担当者	4	細菌科

※同日に3会場で実施

平成 30 年度

整理番号	年月日	内 容	対 象	人数	担 当 科
1	H30. 6. 1	水質検査技術指導（クロスチェック検討会）	行政担当者 関係団体職員	24	水質科
2	H30. 6. 5～7	岡山大学医学部公衆衛生学学外実習 細菌検査実習、電子顕微鏡実習、アレルギー物質検査実習等	大学生	8	細菌科 ウイルス科 衛生化学科
3	H30. 11. 26	新型インフルエンザ等発生時の患者移送に関する講習	消防機関等職員 行政担当者	—	所 長

令和元年度

整理番号	年月日	内 容	対 象	人数	担 当 科
1	R1. 6. 4～6	岡山大学医学部公衆衛生学学外実習 細菌検査実習、電子顕微鏡実習、アレルギー物質検査実習等	大学生	8	細菌科 ウイルス科 衛生化学科
2	R1. 6. 7	水質検査技術指導（クロスチェック検討会）	行政担当者 関係団体職員	22	水質科
3	R1. 7. 17	病原体輸送に係る研修	行政担当者	22	ウイルス科
4	R1. 7. 31	市町村職員の環境対策研修会 水質事故時の対応について	市町村環境保全 担当者	45	水質科
5	R1. 8. 2～8	業務概要説明、大気分析実習、水質分析実習	大学生	1	大気科 水質科
6	R1. 8. 19～23	大気分析実習、水質分析実習、食品分析実習	専門学校生	2	大気科 水質科 衛生化学科
7	R1. 9. 24	岡山三川水質事故対策訓練 水質汚濁事象等危機管理初動対応講習・実習	消防機関等職員 行政担当者	61	水質科
8	R2. 3. 12	新型コロナウイルスの遺伝子検査法見学会	医療関係者等	5	ウイルス科
9	R2. 3. 26	新型コロナウイルスに係る PCR 検査の研修	医療関係者等	4	ウイルス科

年報掲載課題一覧

平成29年度

No.	種別	題名	科名
1	資料	岡山県における微小粒子状物質の成分分析結果（平成29年度）	大気科
2	資料	平成29年度健康被害を伴った高濃度光化学オキシダントの主要因について	大気科
3	資料	児島湖の底層溶存酸素量及び透明度について	水質科
4	資料	活性炭による1,4-ジオキサンの処理方法の基礎的検討	水質科
5	資料	事故時等緊急時の化学物質の分析技術の開発に関する研究－河川等の白濁事象の原因調査－	水質科
6	調査研究	岡山県内における環境放射能バックグラウンド調査-ヨモギ-（第3報）	放射能科
7	調査研究	志賀毒素産生性大腸菌の疫学調査（平成29年度）	細菌科
8	資料	近接地域で連続して発生した2件のコレラ事例	細菌科
9	調査研究	臨床的に麻しんが疑われた患者におけるウイルスの検索	ウイルス科
10	調査研究	岡山県におけるインフルエンザ流行の疫学的解析（2016 / 2017年シーズン）	ウイルス科
11	調査研究	逆転写リアルタイムPCR法によるノロウイルス、サポウイルス及びアストロウイルスの同時検出法の検討	ウイルス科
12	資料	平成28年度感染症流行予測調査（ポリオ感染源調査）	ウイルス科
13	調査研究	LC-MS/MSを用いたはちみつ中の動物用医薬品に関する一斉分析法の検討	衛生化学科
14	資料	PCB全異性体分析法を用いた魚介類の実態調査（第二報）	衛生化学科
15	資料	魚介類中の有機スズ実態調査（第3報）	衛生化学科
16	資料	ダイズ及びダイズ加工食品を対象とした遺伝子組換え食品の実態調査（平成29年度）	衛生化学科
17	資料	岡山県における梅毒急増の現状解析	感染症情報センター

平成30年度

No.	種別	題名	科名
1	調査研究	岡山県における微小粒子状物質の成分分析結果について（平成28～30年度）	大気科
2	調査研究	岡山県内4地点の大気環境中微小粒子状物質の発生源解析について	大気科
3	調査研究	事故時等緊急時の化学物質の分析技術の開発に関する研究 －3-クロロ-2-プロペン-1-オールの水質分析法の検討－	水質科
4	調査研究	事故時等緊急時の化学物質の分析技術の開発に関する研究 －3-クロロ-2-プロペン酸の水質分析法の検討－	水質科
5	調査研究	事故時等緊急時の化学物質の分析技術の開発に関する研究 －3-ベンジリデンカンファーの分析法の検討－	水質科
6	調査研究	児島湖隣接区域（北七区）における汚濁負荷量調査	水質科
7	調査研究	活性炭カラム及びフェントン処理による1,4-ジオキサンの処理方法の基礎的検討	水質科
8	資料	人形峠周辺の環境放射線等測定に係る補完調査－野菜・精米－ （第1報）	放射能科
9	調査研究	志賀毒素産生性大腸菌の疫学調査（平成30年度）	細菌科
10	調査研究	腸管出血性大腸菌の検査におけるMLVA法の整備	細菌科
11	調査研究	感染症起因菌の疫学調査（平成28年度～平成30年度） 岡山県内のレジオネラの疫学調査について	細菌科
12	資料	結核菌DNA解析調査事業報告（平成28～30年度）	細菌科
13	調査研究	胃腸炎ウイルスの疫学的研究 －岡山県の散発胃腸炎患者におけるロタウイルスAの流行状況 （2009-2017）－	ウイルス科
14	調査研究	岡山県におけるインフルエンザ流行の疫学的解析（2017/2018年 シーズン）	ウイルス科
15	資料	平成29年度感染症流行予測調査（ポリオ感染源調査）	ウイルス科
16	調査研究	LC-MS/MSを用いた牛の筋肉中の動物用医薬品に関する一斉分析法 の検討	衛生化学科
17	調査研究	繊維製品に含まれるアゾ化合物由来の特定芳香族アミン類試験法 の検討	衛生化学科
18	調査研究	岡山県で発生した植物性自然毒による食中毒事例への対応につい て（平成21～30年）	衛生化学科

令和元年度(予定)

No.	種別	題名	科名
1	資料	岡山県における光化学オキシダント情報・注意報の広域発令について（令和元年度）	大気科
2	資料	新幹線鉄道騒音・振動調査事業報告（平成22～令和元年度）	大気科
3	調査研究	事故時等緊急時の化学物質の分析技術の開発に関する研究－県内三主要河川における河川水中農薬類濃度レベルの実態調査－	水質科
4	資料	魚のへい死事例の原因究明について	水質科
5	資料	湖沼の簡易シミュレーション計算プログラムの作成と児島湖水質への適用	水質科
6	資料	人形峠周辺の環境放射線等測定に係る補完調査－野菜・精米－（第2報）	放射能科
7	調査研究	感染症及び食中毒起因菌の汚染実態に関する研究	細菌科
8	資料	岡山県における腸管出血性大腸菌感染症の発生動向調査（2019年度）	細菌科
9	資料	2019年8月に岡山県内で発生した4件の食中毒事例から分離された <i>Salmonella</i> Stanley の PFGE 解析について	細菌科
10	調査研究	胃腸炎ウイルスの疫学的研究－岡山県の散発胃腸炎患者から検出されたロタウイルスA遺伝子再集合体株の解析（2012-2017）－	ウイルス科
11	資料	岡山県におけるインフルエンザ流行の疫学的解析（2018/19年シーズン）	ウイルス科
12	資料	平成30年度感染症流行予測調査（ポリオ感染源調査）	ウイルス科
13	調査研究	LC-MS/MSを用いた牛の筋肉及び腎臓中のアミノグリコシド系抗生物質に関する一斉分析法の検討	衛生化学科
14	調査研究	繊維製品に含まれるアゾ化合物由来の特定芳香族アミン類試験法の検討(第2報)	衛生化学科
15	資料	GC-MS/MSを用いた野菜類及び果実類中残留農薬の一斉分析法の妥当性評価(第3報)	衛生化学科

学会誌掲載論文一覧

平成29年度

No.	題 名	誌 名	著 者
1	Complete Genome Sequences of the <i>p1</i> Gene Type 2b and 2c Strains <i>Mycoplasma pneumoniae</i> KCH-402 and KCH-405	American Society for Microbiology	(共著者) 中嶋 洋
2	A Case of Community-Acquired Pneumonia Due to <i>Legionella pneumophila</i> Serogroup 9 Wherein Initial Treatment with Single-Dose Oral Azithromycin Appeared Useful	Japanese Journal of Infectious Diseases	(共著者) 中嶋 洋
3	オウム病	獣医畜産新報	岸本壽男、爲房園美、松岡保博、谷川徳行、木田浩司、濱野雅子
4	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	獣医畜産新報	岸本壽男、爲房園美、松岡保博、谷川徳行、木田浩司、濱野雅子

平成30年度

No.	題 名	誌 名	著 者
1	血清抗体価測定による <i>Yersinia pseudotuberculosis</i> 感染症の発生状況調査 (1999年～2016年)	感染症学雑誌	中嶋 洋、狩屋 英明、岸本壽男
2	<i>Legionella pneumophila</i> and Other <i>Legionella</i> Species Isolated from Legionellosis Patients in Japan between 2008 and 2016.	Applied Environmental Microbiology	(共著者) 中嶋 洋
3	2017年に岡山県内の近接地域で連続して発生した関連性不明の2件のコレラ事例	公衆衛生情報	狩屋 英明、岸本壽男
4	集団食中毒事例で分離された腸管出血性大腸菌 O157:H7 (VT1&2) について—岡山県	病原微生物検出情報	仲 敦史、河合央博、中嶋 洋、狩屋英明
5	LAMP-based assay can rectify the diagnosis of <i>Yersinia pseudotuberculosis</i> infections otherwise missed by serology	Journal of Medical Microbiology	(共著者) 中嶋 洋
6	平成28年度ポリオ環境水サーベイランス(感染症流行予測調査事業および調査研究)にて検出されたエンテロウイルスについて	病原微生物検出情報	(共著者) 磯田美穂子

7	Detection of influenza A(H3N2) viruses exhibiting reduced susceptibility to the novel cap-dependent endonuclease inhibitor baloxavir in Japan, December 2018	Eurosurveillance	(共著者) 野宮加代子
8	痲皮生検除去後に形成された血痲から病原体DNAが検出された日本紅斑熱の1例	感染症学雑誌	(共著者) 木田浩司、松岡保博、岸本壽男

令和元年度

No.	題 名	誌 名	著 者
1	児島湖流入河川の水質についての一考察	全国環境研究会誌	藤田和男、小川知也、吉岡敏行
2	Nationwide Molecular Epidemiology of Measles Virus in Japan Between 2008 and 2017	Frontiers in Microbiology	(共著者) 濱野雅子
3	A Case of Cat-to-Human Transmission of Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome Virus	Japanese Journal of Infectious Diseases	木田浩司、松岡保博、望月 靖、岸本壽男

報告書等一覧

平成29年度

No.	種別	題名	報告書名等	著者
1	報告書等	人形峠周辺の環境放射線等測定報告（平成29年度）	平成29年度人形峠周辺の環境放射線等測定報告書	（共著者）小川 登、木下浩行、加藤大貴、蜂谷博郎、清水光郎、藤岡敏修、岸本壽男
2	報告書等	食品由来感染症の病原体情報の解析及び共有化システムの構築に関する研究	平成29年度厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業） 平成29年度 分担研究報告書	（共著者）河合央博、狩屋英明、仲 敦史、中嶋 洋
3	報告書等	食品由来感染症の病原体情報の解析及び共有化システムの構築に関する研究	平成27～29年度厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業） 平成27～29年度 分担研究総合報告書	（共著者）中嶋 洋、河合央博、狩屋英明、大畠律子、檀上博子、仲 敦史、畑ますみ
4	報告書等	全国地方衛生研究所において分離される薬剤耐性菌の情報収集体制の構築	厚生労働科学研究費補助金（食品の安全確保推進研究事業）平成29年度 分担研究報告書 食品由来薬剤耐性菌の発生動向及び衛生対策に関する研究	（共著者）狩屋英明、仲 敦史
5	報告書等	地方衛生研究所における病原体サーベイランスの評価と改善に関する研究	平成29年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業） 新興・再興感染症の発生に備えた感染症サーベイランスの強化とリスクアセスメント 分担研究報告書	（共著者）濱野雅子
6	報告書等	感染症発生動向調査におけるエンテロウイルス病原体検査に関わる外部精度調査（EQA）導入の研究	平成29年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業） 地方衛生研究所における病原微生物検査に対する外部精度管理の導入と継続的实施に必要な事業体制の構築に関する研究 分担研究報告書	（共著者）木田浩司
7	単行本	<i>Chlamydia psittaci</i> 感染症	病原細菌・ウイルス図鑑	（共著者）岸本壽男

平成30年度

No.	種別	題名	報告書名等	著者
1	報告書等	3-クロロ-2-プロペン-1-オールの分析法	平成29年度化学物質分析法開発調査報告書	山本浩司、浦山豊弘
2	報告書等	人形峠周辺の環境放射線等測定報告（平成30年度）	人形峠周辺の環境放射線等測定報告書（第41号）	（共著者）信森達也、加藤大貴、蜂谷博郎、小川 登、藤岡敏修、岸本壽男

3	報告書等	中四国ブロックにおける食品由来感染症の病原体の解析手法及び共有化システムの構築のための研究（平成30年度）	厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業） 食品由来感染症の病原体の解析手法及び共有化システムの構築のための研究 平成30年度 総括・研究分担報告書	（共著者）狩屋英明、河合央博、森本晃司、仲 敦史、中嶋 洋
4	報告書等	地研ネットワークを利用した食品およびヒトから分離されるサルモネラ、大腸菌、カンピロバクター等の薬剤耐性の動向調査	厚生労働科学研究費補助金（食品の安全確保推進研究事業） 平成30年度 分担研究報告書	（共著者）狩屋英明、森本晃司、仲 敦史
5	報告書等	地方衛生研究所が担うHIV検査の現状評価と課題の解決	厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業） HIV検査受検勧奨に関する研究 平成30年度 総括・分担研究報告書	（共著者）松岡保博

令和元年度

No.	種別	題名	報告書名等	著者
1	報告書等	3-クロロ-2-プロペン酸の水質分析法	平成 30 年度化学物質と環境 化学物質分析法開発調査報告書	浦山豊弘、山本浩司、大月史彦
2	報告書等	3-ベンジリデンカンファールの水質分析法	平成 30 年度化学物質と環境 化学物質分析法開発調査報告書	大月史彦
3	報告書等	人形峠周辺の環境放射線等測定報告（令和元年度）	人形峠周辺の環境放射線等測定報告書	（共著者）信森達也、中野拓也、小川 登、加藤大貴、二階堂日出伸、望月 靖
4	報告書等	中四国ブロックにおける食品由来感染症の病原体の解析手法及び共有化システムの構築のための研究	（厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業） 食品由来感染症の病原体の解析手法及び共有化システムの構築のための研究 令和元年度 総括・研究分担報告書	（共著者）狩屋英明、河合央博、森本晃司、仲 敦史、中嶋 洋
5	報告書等	地研ネットワークを利用した食品およびヒトから分離されるサルモネラ、大腸菌、カンピロバクター等の薬剤耐性の動向調査	（厚生労働科学研究費補助金 食品の安全確保推進研究事業） 食品由来薬剤耐性菌のサーベイランスのための研究 令和元年度 分担研究報告書	（共著者）狩屋英明
6	報告書等	地方衛生研究所における HIV 検査マニュアル普及のための研修会の実施	（厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業） HIV 検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究 総括・分担研究報告書	（共著者）森重李南
7	報告書等	麻しん・風しん研修会【岡山県からの情報提供】	岡山県医師会報	木田浩司

学会発表課題一覧

平成29年度

No.	題 名	学会名	発表者
1	キチマダニ由来の新種ウイルスの解析	ダニと疾患のインターフェースに関するセミナー	木田浩司、谷川徳行、松岡保博、野宮加代子、藤原香代子、濱野雅子、岸本壽男
2	Rapid Determination System of Viral RNA Sequence ver. 3.1の検出感度の改善	平成29年度岡山県獣医三学会	木田浩司、谷川徳行、松岡保博、野宮加代子、藤原香代子、濱野雅子、岸本壽男
3	ヒトへの感染が懸念されるキチマダニ由来の新種コルチウイルス	平成29年度岡山県獣医三学会	木田浩司、谷川徳行、松岡保博、野宮加代子、藤原香代子、濱野雅子、岸本壽男
4	岡山県におけるPM _{2.5} 実態調査について	第58回大気環境学会年会	中野温朗、間野遼太、山田克明、野村 茂、信森達也、鷹野 洋
5	Rapid Determination System of Viral RNA Sequence ver. 3.1の検出感度の改善	平成29年度獣医学術中国地区学会	木田浩司、谷川徳行、松岡保博、野宮加代子、梶原香代子、濱野雅子、岸本壽男
6	ヒトへの感染が懸念されるキチマダニ由来の新種コルチウイルス	平成29年度獣医学術中国地区学会	木田浩司、谷川徳行、松岡保博、野宮加代子、梶原香代子、濱野雅子、岸本壽男
7	岡山県のキチマダニから分離された Tarumizu tick virusの解析	第10回日本リケッチア症臨床研究会	木田浩司、谷川徳行、松岡保博、野宮加代子、梶原香代子、濱野雅子、岸本壽男
8	4-ビニル-1-ヘキセン（水質）の分析法	平成29年度化学物質環境実態調査環境科学セミナー	山本浩司
9	岡山県における梅毒急増についての現状の解析	第24回岡山県保健福祉学会	爲房園実、筒井みちよ
10	河川における魚へい死時の農薬類の分析について	第24回岡山県保健福祉学会	山本浩司
11	リアルタイムRT-PCR法による胃腸炎起因ウイルスの同時検出法の検討	第24回岡山県保健福祉学会	梶原香代子、松岡保博、木田浩司、谷川徳行、野宮加代子、濱野雅子
12	麻しんが否定された発疹性疾患におけるウイルスの検索	第24回岡山県保健福祉学会	松岡保博、木田浩司、谷川徳行、野宮加代子、梶原香代子、濱野雅子
13	ヒトへの感染が懸念されるキチマダニ由来の新種コルチウイルス	平成29年度日本獣医師会獣医三学会年次大会	木田浩司、谷川徳行、松岡保博、野宮加代子、梶原香代子、濱野雅子、岸本壽男
14	岡山県における水質事故時等の水質分析体制と原因特定事例について	平成29年度全国環境研協議会第52回日本水環境学会年会併設研究集会	山本浩司、林 隆義、藤田和男、浦山豊弘、岡 弘子、小川知也、山辺真一、吉岡敏行

平成30年度

No.	題 名	学会名	発表者
1	LC/MSによる化学物質分析法の基礎的研究 (73) (1) 水質試料中の3-クロロ-2-プロ ペン酸の分析	第27回環境化学討論会	浦山豊弘
2	下水におけるノロウイルスサーベイランス 手法の確立	第59回日本臨床ウイルス学会	木田浩司、野宮加代子、 松岡保博、濱野雅子
3	岡山県におけるTarumizu tick virus の侵 淫状況調査	第26回ダニと疾患のインターフェース に関するセミナー	木田浩司、谷川徳行、 松岡保博、野宮加代子、 梶原香代子、濱野雅子、 岸本壽男
4	市販国産食肉のサルモネラ汚染状況及び分 離菌の保存菌株との性状比較	平成30年度岡山県獣医三学会	狩屋英明
5	流行性角結膜炎患者からのヒトアデノウイ ルス検出法の検討	平成30年度岡山県獣医三学会	松岡保博、木田浩司、 野宮加代子、橋本清美、 望月 靖
6	市販国産食肉のサルモネラ汚染状況及び分 離菌の保存菌株との性状比較	平成30年度獣医学術中国地区学会	狩屋英明
7	流行性角結膜炎患者からのヒトアデノウイ ルス検出法の検討	平成30年度獣医学術中国地区学会	松岡保博、木田浩司、 野宮加代子、橋本清美、 望月 靖
8	児島湖の底層溶存酸素量及び透明度の状況 について	平成30年度全国環境衛生職員団体協議 会事例研究発表会	小川知也
9	平成29年度における岡山県の微小粒子状物 質 (PM2.5) 成分分析結果について	第45回環境保全・公害防止研究発表会	山田克明、間野遼太、 西村佳恵、赤木正章、 野村 茂、小川 登
10	河川等の白濁事象の原因調査について	第45回環境保全・公害防止研究発表会	浦山豊弘、吉岡敏行、 藤田和男、山本浩司
11	日本紅斑熱リケッチアの薬剤併用に対する 感受性	第11回日本リケッチア症臨床研究会・ 第25回リケッチア研究会合同研究発表 会	木田浩司、野宮加代子、 松岡保博、橋本清美、 濱野雅子、望月 靖、 岸本壽男
12	野生動物から検出される <i>Escherichia</i> <i>albertii</i>	第25回岡山県保健福祉学会	仲 敦史、狩屋英明
13	VP7遺伝子の解析によるロタウイルスAの正 確な流行状況の把握及びG遺伝子型別手法 についての一考察	第25回岡山県保健福祉学会	野宮加代子、松岡保博、 濱野雅子、橋本清美、 木田浩司
14	岡山県における魚介類中のPCBの汚染実態 調査について	第25回岡山県保健福祉学会	難波順子、林 隆義
15	3-クロロ-2-プロペン-1-オール(水質)の分 析	平成30年度化学物質環境実態調査環境 科学セミナー	山本浩司
16	農薬の流出による魚へい死事例について	第53回日本水環境学会年会併設全国環 境研協議会研究集会	山本浩司、吉岡敏行

令和元年度

No.	題 名	学会名	発表者※
1	環境水サーベイランスで分離されたヒトアデノウイルス57型	第60回日本臨床ウイルス学会	松岡保博、野宮加代子、濱野雅子、木田浩司
2	LC/MSによる化学物質分析法の基礎的研究(76) (2) 水質試料中の3-ベンジリデンカンファーの分析(3) 水質試料中の3-クロロ-2-プロペン酸の分析	第28回環境化学討論会	山本浩司、浦山豊弘、大月史彦
3	岡山県で初めて検出されたG8型ロタウイルスA	令和元年度岡山県獣医三学会	松岡保博、木田浩司、石井 学、長尾和彦、森重李南
4	岡山県内における河川等の白濁事象について	第65回中国地区公衆衛生学会	山本浩司、藤田和男、吉岡敏行、浦山豊弘
5	岡山県における魚介類中の有機スズ実態調査結果について	第65回中国地区公衆衛生学会	浦山豊弘、赤木正章、林 隆義、難波順子
6	岡山県で初めて検出されたG8型ロタウイルスA	令和元年度獣医学術中国地区学会	松岡保博、木田浩司、石井 学、長尾和彦、森重李南
7	岡山県における環境水サーベイランスによるノロウイルスGⅡ 遺伝子型の流行把握	第78回日本公衆衛生学会総会	木田浩司、望月 靖
8	岡山県における化学物質環境モニタリング調査の実施状況について	第46回環境保全・公害防止研究発表会	藤本佳恵、吉岡敏行、大月史彦、山本浩司
9	3-ベンジリデンカンファー(水質)の分析	令和元年度化学物質環境実態調査環境科学セミナー	大月史彦
10	岡山県における微小粒子状物質(PM2.5)の成分分析結果について(平成28~30年度)	第26回岡山県保健福祉学会	赤木正章、林 隆義
11	県内河川における <i>Vibrio cholerae</i> 等に関する調査	第26回岡山県保健福祉学会	仲 敦史、狩屋英明
12	岡山県の患者、公衆浴場の浴槽水等から分離されたレジオネラの性状について(平成28年度~平成30年度)	第26回岡山県保健福祉学会	狩屋 英明
13	岡山県で発生した植物性自然毒による食中毒事例への対応について	第26回岡山県保健福祉学会	難波順子

※当センター在籍職員のみ掲載

平成 28～30 年度に実施した調査研究に係る事後評価結果

1 課題別の評価結果

課題名	微小粒子状物質 (PM2.5) の現況把握に関する研究								
担当科	環境科学部 大気科								
課題の概要	PM2.5 に係る大気環境の実態を詳細に調査して、地域的な特質の把握や発生源別寄与割合の推定等を行う。								
評価結果	区分		5点	4点	3点	2点	1点	平均	
	評価項目	目標達成度			3人	4人			3.4
		有効性	想定した効果		2人	5人			3.3
			それ以外の効果		3人	4人			3.4
		効率性 妥当性	費用対効果		2人	5人			3.3
			手法・計画		2人	5人			3.3
		成果の活用・発展性			2人	5人			3.3
	総合評価			3人	4人			3.4	
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・晴れか雨か等、気象条件や風速データも明示して説明して欲しい。 ・野焼きの影響等、目的以外の成果が得られたことは興味深い。 ・測定局の選定に当たっての立地条件の客観性がやや薄いと思われる。 ・全国の状況と岡山県の状況、広域的な影響（大陸影響）の分別等について、もう少し踏み込めると良い。ローカルな影響の解明にも役立つと思われる。 ・PM2.5の人体への影響について、今のままで良いのか悪いのかを説明して欲しい。 								

【総合評価凡例】

5点：著しい成果が得られた。 4点：十分な成果が得られた。 3点：一定の成果が得られた。
2点：見込んだ成果を下回った。 1点：成果が得られなかった。

課題名	環境中有害化学物質の分析・検索技術の開発に関する研究								
担当科	環境科学部 水質科								
課題の概要	化学物質の流出事故等発生時に、適切な対応が可能な態勢を構築するため、緊急時における有害化学物質の分析法を検討、開発する。								
評価結果	区 分		5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均	
	評価項目	目標達成度		1 人	4 人	2 人			3.9
		有効性	想定した効果	1 人	5 人	1 人			4.0
			それ以外の効果		6 人	1 人			3.9
		効率性 妥当性	費用対効果		4 人	3 人			3.6
			手法・計画	1 人	3 人	3 人			3.7
		成果の活用・発展性		1 人	6 人				4.1
	総合評価		2 人	4 人	1 人			4.1	
助言・ 指摘 事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・分析の高感度化を更に推進して欲しい。 ・開発した分析法が全国調査の公定法として活用されたことは高く評価できる。 ・魚のへい死事例が平成 30 年 10 月に集中していた点の説明も欲しかった。 								

課題名	児島湖における水質汚濁メカニズムの解明								
担当科	環境科学部 水質科								
課題の概要	児島湖への流入水負荷量及び児島湖の水質に係る物質収支の推移を詳細に解析することにより、児島湖の汚濁メカニズムを解明し、併せて行政施策と水質変動の関連について検証を行い、水質改善施策検討の基礎資料とする。								
評価結果	区 分		5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均	
	評価項目	目標達成度			4 人	3 人			3.6
		有効性	想定した効果	1 人	2 人	4 人			3.6
			それ以外の効果	1 人	3 人	3 人			3.7
		効率性 妥当性	費用対効果		3 人	4 人			3.4
			手法・計画		3 人	4 人			3.6
		成果の活用・発展性		2 人	1 人	3 人	1 人		3.6
総合評価		1 人	4 人	2 人			3.9		
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・地道な調査と分析の推進に敬意を表する。この成果を地元の方に理解いただけるような広報活動を考えて欲しい。 ・地道な努力が適正に結果に結びついているが、湖沼の現象解明はやはり簡単ではない。 ・解析手法を他の湖沼にも応用・技術移転できるよう更に推進して欲しい。 ・地球温暖化等、他の影響についても検討して欲しい。 ・今回の成果の学会等報告状況の説明も欲しかった。 								

課題名	廃棄物最終処分場の排水等に係る適正かつ低コストな処理方法の検討に関する研究								
担当科	環境科学部 水質科								
課題の概要	廃棄物最終処分場からの排水等を適正かつ低コストで処理できる技術を検討する。								
評価結果	区 分		5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均	
	評価項目	目標達成度			1 人	6 人			3.1
		有効性	想定した効果		1 人	6 人			3.1
			それ以外の効果		5 人	2 人			3.7
		効率性 妥当性	費用対効果		1 人	6 人			3.1
			手法・計画		2 人	5 人			3.3
	成果の活用・発展性			3 人	2 人	2 人		3.1	
総合評価			2 人	5 人			3.3		
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・実用的な研究である。実験室レベルからスケールアップが可能であるか、その発展性が問われる。 ・単なる追試ではなく、どこに新規性を目指すのかという点を見据える必要がある。 ・海面型処分場での場合についても次は取り組んで欲しい。 ・1,4-ジオキサンの処理方法はここ最近で多様なものが出てきているので、限定的に考えない方が良い。 ・フェントン処理で投入する硫酸やシュウ酸の残存量と処理を考えて欲しい。 ・コスト等の具体的な数値化を検討すべき。 								

課題名	感染症起因菌の疫学調査								
担当科	保健科学部 細菌科								
課題の概要	腸管出血性大腸菌感染症等の有効な疫学調査を実施して、感染源・感染経路究明及び感染予防対策等に資する。								
評価結果	区 分		5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均	
	評価項目	目標達成度			4 人	3 人			3.6
		有効性	想定した効果	1 人	4 人	2 人			3.9
			それ以外の効果	1 人	4 人	2 人			3.9
		効率性 妥当性	費用対効果		5 人	2 人			3.7
			手法・計画		5 人	2 人			3.7
		成果の活用・発展性		1 人	2 人	4 人			3.6
総合評価			5 人	2 人			3.7		
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 菌株データベースの構築は、意義が大きい。 ・ レジオネラについてもデータベース化を更に充実して欲しい。 ・ 津山・美作の事例と沖縄の事例に対応できたのは良かったが、MLVA 法以外の PFGE 法等のタイピング法について、県としての独自性を出して欲しい。 ・ 成果の発展可能性が高いと思われる。 ・ 岡山県の検査体制構築が全国をリードしていると理解できる。 ・ 他県等とのデータベースの共有化を図り、トップランナーとしてこれからも頑張ってもらいたい。 								

課題名	胃腸炎起因ウイルスの流行状況の把握と迅速で正確な検査法確立に関する研究								
担当科	保健科学部 ウイルス科								
課題の概要	感染症予防対策及び集団食中毒等の原因究明に資するため、ロタウイルス流行状況を正確に把握することで、ワクチン導入による流行への影響を評価するとともに、集団胃腸炎起因ウイルスを同時に検査可能な遺伝子検査法を確立する。								
評価結果	区分		5点	4点	3点	2点	1点	平均	
	評価項目	目標達成度			7人				4.0
		有効性	想定した効果		7人				4.0
			それ以外の効果		7人				4.0
		効率性 妥当性	費用対効果		5人	2人			3.7
			手法・計画		4人	3人			3.6
		成果の活用・発展性		1人	6人				4.1
総合評価			7人				4.0		
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ロタウイルスワクチンの効果の判定等、タイムリーな研究成果だと思う。 ・ロタウイルスワクチンの株の解析の結果は、全国的な傾向と合致しているか確認を要する。 ・ノロウイルスは漁協と協力できると良い。 ・環境水サーベイランスとの組み合わせ等、今後の成果の発展性が期待される。 ・より多くの下水処理場での調査を進めて欲しい。 ・環境DNA解析手法の下水への応用として興味深い。本当の環境水（河川水）との比較をしてみても面白いかもしれない。 ・成果をどう発信して感染防止活動に繋げていくかが次のステップである。 								

課題名	食品と医薬品等に含まれる有害化学物質等の分析技術の開発に関する研究								
担当科	保健科学部 衛生化学科								
課題の概要	残留農薬、動物用医薬品、自然毒等の効率的な分析技術を確立するとともに、アレルギー物質及び遺伝子組換え食品について検査法を検討する。								
評価結果	区 分		5点	4点	3点	2点	1点	平均	
	評価項目	目標達成度			2人	5人			3.3
		有効性	想定した効果		1人	5人	1人		3.0
			それ以外の効果		1人	6人			3.1
		効率性 妥当性	費用対効果		1人	5人	1人		3.0
			手法・計画		1人	6人			3.1
		成果の活用・発展性			3人	3人	1人		3.3
総合評価			1人	6人			3.1		
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・抗菌性物質の理化学的検出は重要な課題だと思う。 ・総論としては一定の成果を上げてはいるが今一步であるので、更なる成果が望まれる。抗菌性物質については、同時分析法の開発の達成率はあまり高くないように見える。遺伝子組換え作物については、検査体制を整備した作物の数は限定的である。 ・分析機器の感度の問題で妥当性評価を満たさない物質も多かったことが、課題として残る。 ・機器更新の努力を要する。 ・県民のニーズ（安心できる食品の流通、健康被害の発生防止）に対する成果は出ているのか、説明が必要である。 ・研究報告の中で、実際の事例報告があると良い。 								

2 その他助言・指摘事項

<ul style="list-style-type: none"> ・得られた成果の活用について、一つは行政施策やサービスへの反映がセンターの存在価値であるので、センターとしてアピールポイントをしっかりと考えて欲しい。 ・研究の成果を県民にどうフィードバックさせるかという点をしっかりと工夫して欲しい。 ・外部資金の獲得方法や、外部から相談があった際の柔軟な対応方法について、行政としては難しいところもあるかと思うが、工夫が必要である。 ・研究を取り巻く環境は好ましい状況とは言えないが、人的・機器的な資源が継続的に確保され、化学物質の分析法など、今持っている技術を更に高めていくことができるならば、県民の期待に応えていけるのではないかな。 ・事後評価は目標に対する達成度を評価するものであるため、各課題の説明の最初に目標を示して、これと関連づけて説明して欲しい。 ・研究の背景について、県独自のものか、国の施策の一環なのかの説明があれば、全体をより理解しやすい。 ・学会等での発表状況について、資料の分量にかかわらず、明示して欲しい。
--

令和元～3年度に実施する調査研究に係る事前評価結果

1 課題別の評価結果

課 題 名	災害等の発生時における環境モニタリング手法に関する研究							
担 当 科	環境科学部 大気科							
課題の概要	災害等の発生に伴い、大気中に拡散された化学物質（揮発性有機化合物等）について、迅速性や精度、災害時での活用性等を踏まえた環境モニタリング手法を検討する。							
評 価 結 果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均	
	評 価 項 目	必 要 性	5 人	2 人				4.7
		有 効 性	1 人	6 人				4.1
		効率性・妥当性		6 人	1 人			3.9
	総 合 評 価	2 人	5 人				4.3	
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・興味深いテーマである。 ・災害時と銘打つならば、例えば南海トラフ巨大地震の発災時の風向、被災工場などを考慮した測定地点、測定時間等の設定が重要ではないか。 ・被災現場を想定した測定練習等も必要ではないか。 ・一般的な大規模災害（2018年7月の水害など）も対象に含めて計画を検討してはどうか。 ・ヒトへの影響も考察し保健的な観点も含めた対応が必要ではないか。 ・災害時のマニュアルも準備してはどうか。 ・災害等の発生時における岡山県独自の環境モニタリング手法を確立してもらいたい。 							

※凡例

【評価項目】:	5点 極めて優れている
	4点 優れている
	3点 普通
	2点 改善すべき
	1点 劣っている
【総合評価】:	5点 優先的に実施することが適当
	4点 実施することが適当
	3点 計画等を改善して実施することが適当
	2点 実施の必要性が低い
	1点 計画等を見直して再評価を受けることが必要

課 題 名	農薬類の河川生態系への影響調査と一斉分析法に関する研究							
担 当 科	環境科学部 水質科							
課題の概要	<p>県下河川における農薬類の存在状況の把握や生態リスク評価を行うとともに、一次生産者である付着藻類の消長を調査し、その関連性を検討する。併せて農薬類の一斉分析法を開発し、本調査に活用する。</p> <p>また、これらの研究成果を水質事故時等の緊急時にも活用できるようにする。</p>							
評 価 結 果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均	
	評 価 項 目	必 要 性	1 人	4 人	2 人			3.9
		有 効 性	1 人	5 人	1 人			4.0
		効 率 性 ・ 妥 当 性	1 人	4 人	2 人			3.9
	総 合 評 価	1 人	4 人	2 人			3.9	
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・測定法の開発は有用である。 ・アユ漁獲量の増加に期待する。 ・岡山県産のアユは有名か。 ・アユと付着藻類の関係だけでなく、もう少し広い視野で研究に取り組んでもらいたい。 ・農薬と付着藻類の関連性は難しい課題であるので、先行調査や文献等を調べて、ある程度の結果予測をしながら実施してもらいたい。 ・県南部では用排水路が張り巡らされ、水域が面的に広がっていることを踏まえて研究を行うことで、アユモドキ等のアユ以外の淡水魚にも成果が及ぼすことが出来れば、県民の中でそういった事に興味を持たれている方々にも朗報になりそうである。 ・水産研究所との連携をより深めて欲しい。 ・ニーズとして挙げたマイクロプラスチックへの対応も計画に加えてはどうか。 							

課 題 名	児島湖の汚濁負荷に関する調査研究							
担 当 科	環境科学部 水質科							
課題の概要	<p>児島湖の流入河川のうち、倉敷川では汚濁負荷量の削減に比べて水質の改善が低調なため、倉敷川の中で汚濁負荷が高い中・下流域で汚濁負荷の状況を詳細に調査し、発生源ごとの影響の度合いを評価する。</p> <p>このほか、流出水対策地区の汚濁負荷量調査や水生生物による水質等への影響調査を実施し、児島湖の水質保全に資する調査研究等を推進とする。</p>							
評 価 結 果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均	
	評 価 項 目	必 要 性	2 人	4 人	1 人			4.1
		有 効 性		5 人	2 人			3.7
		効率性・妥当性	3 人	1 人	3 人			4.0
総 合 評 価	3 人	2 人	2 人				4.1	
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・児島湖はある面で岡山県のシンボルなので重点的に取り組んで欲しい。 ・ぜひ継続して研究して欲しいテーマである。 ・水生植物による水質等への影響調査は、興味深い。 ・水生植物の分布状況の把握は、今後の植生管理に重要なデータが得られるので頑張って欲しい。 ・環境教育の観点も視野に入れ、小・中・高校等の教育機関と連携や協力はできないか。 ・水生植物の利用に関する研究などで高校等と連携や協力ができれば、教育効果も期待できそうである。 ・今まで実施されてきた倉敷川流域における汚濁負荷状況の調査を活用し、環境に優しい水質浄化法を検討してもらいたい。 ・児島湖を資源として有効活用することで児島湖に県民の注目が集まれば、水質改善に資する各種事業の促進に繋がる可能性もあるので、このような点も踏まえて研究に取り組んでもらいたい。 ・課題名が具体的ではないので、そのことで損をしていないか。 							

課 題 名	感染症及び食中毒起因菌の汚染実態に関する研究							
担 当 科	保健科学部 細菌科							
課題の概要	レジオネラ等の感染症等起因菌の感染源となる食品等の汚染状況や流行株の汚染実態を把握する調査を行い、行政施策を実行する上で重要な科学的根拠を提示する。							
評 価 結 果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均	
	評 価 項 目	必 要 性	5 人	1 人	1 人			4.6
		有 効 性	3 人	4 人				4.4
		効率性・妥当性	2 人	4 人	1 人			4.1
	総 合 評 価	5 人	2 人				4.7	
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・レジオネラの水たまり調査は出来るだけ広範囲に行い、精度の高い基礎資料を作成してもらいたい。 ・エルシニアについては継続してもらいたい。 ・エルシニアと腸管出血性大腸菌は患者の発生待ちなので致し方ないが、サルモネラは計画的に調査を行っていただきたい。 ・科学的データの収集と発信が重要な課題であるので、感染源を十分に把握して発信して欲しい。 ・ハチミツの細菌汚染についても調査してはどうか。 							

課 題 名	ウイルス・リケッチア感染症の包括的流行疫学に関する研究						
担 当 科	保健科学部 ウイルス科						
課題の概要	地域全体としての病原体の分布を包括的に把握・解析し、感染症流行の拡大防止、さらには発生自体の抑制の一助とする。						
評 価 結 果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均
	評 価 項 目	必 要 性	3 人	4 人			4.4
		有 効 性	2 人	5 人			4.3
		効率性・妥当性	1 人	5 人	1 人		4.0
総 合 評 価	2 人	5 人				4.3	
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムリーな課題設定である。 ・非常に重要なテーマである。 ・包括的解析を実施するという新規性に期待する。 ・調査・研究方向がしっかりと検討されていることを評価する。 ・環境水サーベイランスでは、ポリオで先行調査を行っているとのことだが、本研究では対象範囲がノロウイルスなど広範囲に及ぶと推察されるので、何種類くらいのウイルスを対象にするのかを明らかにしておいた方がよいのではないか。 ・マダニ調査の調査地点は、県南部で4～6地点くらいが必要なのではないかという印象を受けた。 ・マダニ調査で対象とする野生動物にヌートリアも加えてはどうか。 ・蚊媒介感染症も対象にすることを検討できないか。 						

課 題 名	畜産物に含まれる抗菌性物質等の分析技術の開発に関する研究							
担 当 科	保健科学部 衛生化学科							
課題の概要	畜産物(はちみつ、牛の筋肉等)において、現在開発中の一斉分析法での検査が不可能なテトラサイクリン系及びアミノグリコシド系の抗菌性物質等の系統別分析法を開発する。							
評 価 結 果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均	
	評 価 項 目	必 要 性	3 人	4 人				4.4
		有 効 性	1 人	4 人	2 人			3.9
		効率性・妥当性	1 人	3 人	3 人			3.7
	総 合 評 価	2 人	4 人	1 人			4.1	
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマとしては重要である。 ・検査費用を安価におさえる方法が普及することが重要と思われるので、その点も考えて方法開発してもらいたい。 ・畜産物の抗菌性物質等を機器分析する場合は個々の検査機関で分析法を開発し、妥当性評価を行う必要があるとのことだが、その過程で新規性が出てくる可能性が高いのか不明である。このため、他の部分で新規性や独創性を求めることはできないか。 ・検疫所などのデータを十分に活用することを考えてはどうか。 ・畜産物における残留抗生物質等の違反率は低い印象を受けたので、分析法を開発する必要性をもう少し詳しく説明したほうがよい。 ・「omics」を活用すれば、より広範囲な物質の解析に繋がる可能性もあるのではないか。 							

2 その他助言・指摘事項

<ul style="list-style-type: none"> ・限られた予算と人員、かつ行政ニーズの中で新たなテーマを捻出されるのは大変なことであり、頑張っていると思う。 ・環境分野の課題では、測定から一歩進んで評価や対策に踏み込もうとする試みは意欲的だと思うが、方法論的にはやや限られている印象を持った。 ・保健分野の課題では、それぞれに確立された方法論をさらに伸長するもので期待している。 ・説明資料中に連携先（他の研究所、病院機関など）や研究成果の発表予定（学会名など）が記載されていれば具体的で良い。 ・説明資料中のポンチ絵の「わかりやすさ」と「情報量の多さ」のバランスは、常に配慮すべきである。 ・事業費や人件費の細目を示すなど、もう少し詳細にコストを示してもらいたい。 ・外部資金が少ないので、積極的に外部資金の獲得に挑戦してもらいたい。
--

他の試験研究機関等との連携

平成29年度

整理番号	名 称	連携先	担当科
1	PM2.5環境基準超過をもたらす地域的/広域的汚染機構の解明(Ⅱ型共同研究)	国立環境研究所 地方環境研究所	大気科
2	新規化学物質分析法の開発と化学物質環境実態調査	環境省 地方環境研究所	水質科
3	新環境基準項目(底層D0等)のモニタリング手法および評価手法の構築に関する研究(Ⅱ型共同研究)	国立環境研究所 地方環境研究所	水質科
4	最終処分場ならびに不法投棄地における迅速対応調査手法の構築に関する研究(Ⅱ型共同研究)	国立環境研究所 地方環境研究所	水質科
5	児島湖に係る共同調査研究	岡山大学、岡山理科大学、中国四国農政局、中国四国地方環境事務所、岡山市、倉敷市、玉野市等	水質科
6	結核菌レファレンスセンターへの参加	国立感染症研究所 地方衛生研究所	細菌科
7	百日咳・ジフテリア・ボツリヌスレファレンスセンターへの参加	国立感染症研究所 地方衛生研究所	細菌科
8	大腸菌レファレンスセンターへの参加	国立感染症研究所 地方衛生研究所	細菌科
9	リケッチアレファレンスセンターへの参加	国立感染症研究所 地方衛生研究所	ウイルス科
10	厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業 食品由来感染症の病原体情報の解析及び共有化システムの構築に関する研究 分担研究 食品由来感染症の病原体情報の解析及び共有化システムの構築に関する研究	国立感染症研究所 地方衛生研究所	細菌科
11	厚生労働科学研究費補助金 食品の安全確保推進研究事業 食品由来薬剤耐性菌の発生動向調査及び衛生対策に関する研究 分担研究 全国地方衛生研究所において分離される薬剤耐性菌の情報収集体制の構築	国立感染症研究所 地方衛生研究所	細菌科
12	厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業 地方感染症情報センター・地方衛生研究所の立場からの感染症発	国立感染症研究所 地方衛生研究所	ウイルス科

	生動向調査の評価と改善 新興・再興感染症の発生に備えた感染症サーベイランスの強化と リスクアセスメント 分担研究 地方衛生研究所における病原体サーベイランスの評価と改善に 関する研究		
13	厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事 業 地方衛生研究所における病原微生物検査に対する外部精度管理 の導入と継続的实施に必要な事業体制の構築に関する研究 分 担研究 感染症発生动向調査におけるエンテロウイルス病原体検査に関 わる外部精度調査 (EQA) 導入の研究	国立感染症研究所 地方衛生研究所	ウイルス科

平成 30 年度

整理 番号	調査研究の名称	連携先	担当科
1	PM2.5環境基準超過をもたらす地域的/広域的汚染機構の解明 (Ⅱ 型共同研究)	国立環境研究所 地方環境研究所	大気科
2	新規化学物質分析法の開発と化学物質環境実態調査	環境省 地方環境研究所	水質科
3	新環境基準項目 (底層DO等) のモニタリング手法および評価手 法の構築に関する研究 (Ⅱ型共同研究)	国立環境研究所 地方環境研究所	水質科
4	最終処分場ならびに不法投棄地における迅速対応調査手法の構 築に関する研究 (Ⅱ型共同研究)	国立環境研究所 地方環境研究所	水質科
5	児島湖に係る共同調査研究	岡山大学、岡山理 科大学、中国四国 農政局、中国四国 地方環境事務所、 岡山市、倉敷市、 玉野市等	水質科
6	厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策 推進研究事業 食品由来感染症の病原体の解析手法及び共有化システムの構築 のための研究 分担研究 中四国ブロックにおける食品由来感染症の病原体の解析手法及 び共有化システムの構築のための研究	国立感染症研究所 地方衛生研究所	細菌科
7	厚生労働科学研究費補助金 食品の安全確保推進研究事業 食品由来薬剤耐性菌のサーベイランスのための研究 分担研究 地研ネットワークを利用した食品およびヒトから分離されるサ ルモネラ、大腸菌、カンピロバクター等の薬剤耐性の動向調査	国立感染症研究所 地方衛生研究所	細菌科
8	日本医療研究開発機構 (AMED) 研究費補助金 感染症実用化研究 事業 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事	国立感染症研究所 地方衛生研究所	細菌科

	業 動物由来感染症の制御に資する検査・診断・予防法及びサーベイランスの強化と事前対応に関する研究		
9	厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業 HIV検査受検勧奨に関する研究 分担研究 地方衛生研究所が担うHIV検査の現状評価と課題の解決	国立感染症研究所 地方衛生研究所	ウイルス科
10	日本医療研究開発機構（AMED）研究費補助金 感染症実用化研究事業 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業 愛玩動物由来人獣共通感染症に対する検査及び情報共有体制の構築	国立感染症研究所 地方衛生研究所	ウイルス科

令和元年度

整理番号	調査研究の名称	連携先	担当科
1	光化学オキシダントおよびPM2.5汚染の地域的・気象的要因の解明（Ⅱ型共同研究）	国立環境研究所 地方環境研究所	大気科
2	災害時等の緊急調査を想定したGC/MSによる化学物質の網羅的簡易迅速測定法の開発（Ⅱ型共同研究）	国立環境研究所 地方環境研究所	大気科
3	新環境基準項目（底層D0等）のモニタリング手法および評価手法の構築に関する研究（Ⅱ型共同研究）	国立環境研究所 地方環境研究所	水質科
4	最終処分場ならびに不法投棄地における迅速対応調査手法の構築に関する研究（Ⅱ型共同研究）	国立環境研究所 地方環境研究所	水質科
5	化学物質環境実態調査	環境省 地方環境研究所	水質科
6	農薬類の河川生態系への影響調査と一斉分析法に関する研究	岡山県農林水産総合センター水産研究所	水質科
7	児島湖に係る共同調査研究	岡山大学、岡山理科大学、中国四国農政局、中国四国地方環境事務所、岡山市、倉敷市、玉野市等	水質科
8	厚生労働科学研究費補助金 食品の安全確保推進研究事業 食品由来感染症の病原体の解析手法及び共有化システムの構築のための研究 分担研究 中四国ブロックにおける食品由来感染症の病原体の解析手法及び共有化システムの構築のための研究	国立感染症研究所 地方衛生研究所	細菌科
9	厚生労働科学研究費補助金 食品の安全確保推進研究事業 食品由来薬剤耐性菌のサーベイランスのための研究 分担研究	国立感染症研究所 地方衛生研究所	細菌科

	地研ネットワークを利用した食品およびヒトから分離されるサルモネラ、大腸菌、カンピロバクター等の薬剤耐性の動向調査		
10	日本医療研究開発機構（AMED）研究費補助金 感染症実用化研究事業 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業 動物由来感染症の制御に資する検査・診断・予防法及びサーベイランスの強化と事前対応に関する研究	国立感染症研究所 地方衛生研究所	細菌科
11	厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業 HIV検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究 分担研究 地方衛生研究所におけるHIV検査マニュアル普及のための研修会の実施	国立感染症研究所 地方衛生研究所	ウイルス科
12	日本医療研究開発機構（AMED）研究費補助金 感染症実用化研究事業 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業 愛玩動物由来人獣共通感染症に対する検査及び情報共有体制の構築	国立感染症研究所 地方衛生研究所	ウイルス科
13	日本医療研究開発機構（AMED）研究費補助金 感染症実用化研究事業 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業 ワクチンで予防可能な疾病のサーベイランスとワクチン効果の評価に関する研究	国立感染症研究所 地方衛生研究所	ウイルス科

職員研修の実績

平成29年度

・長期技術研修

整理番号	年月日	研修名	人員	参加	主催
1	H29. 4. 19 ～21	石綿位相差顕微鏡法研修	1	大気科	環境省環境調査研修所
2	H29. 5. 22 ～26	課題分析研修 I (プランクトン)	1	水質科	環境省環境調査研修所
3	H29. 5. 22 ～26	環境放射線測定の入門及び環境放射能分析の入門	1	放射能科	(公財)日本分析センター
4	H29. 6. 19 ～7. 7	ダイオキシン類環境モニタリング研修 (基礎課程)	1	水質科	環境省環境調査研修所
5	H29. 8. 28 ～9. 1	アスベスト分析研修	1	大気科	環境省環境調査研修所
6	H29. 8. 29 ～31	環境モニタリング研修	1	水質科	環境省環境調査研修所
7	H29. 9. 25 ～10. 6	特定機器分析研修 I (ICP-MS)	1	大気科	環境省環境調査研修所
8	H29. 10. 11 ～19	アルファ放射体分析及び迅速分析法	1	放射能科	(公財)日本分析センター
9	H29. 10. 17 ～20	平成29年度化学物質総合評価管理研修	1	企画情報室	経済産業研修所
10	H29. 11. 6 ～24	国立保健医療科学院 細菌研修	1	細菌科	国立保健医療科学院
11	H29. 11. 14 ～22	環境放射能分析研修「平成29年度ゲルマニウム半導体検出器による測定法」	1	放射能科	(公財)日本分析センター
12	H29. 11. 28 ～30	環境放射能分析研修「環境ガンマ線量率測定法」	1	放射能科	(公財)日本分析センター
13	H29. 11. 30 ～12. 15	水質分析研修 (Cコース)	1	水質科	環境省環境調査研修所

・学会等 (資料 8 掲載分を除く)

整理番号	年月日	学会名等	人員	参加
1	H29. 4. 7	第91回日本感染症学会総会・学術講演会	1	所 長
2	H29. 5. 27 ～28	第58回日本臨床ウイルス学会	1	ウイルス科
3	H29. 6. 7 ～9	第26回環境科学討論会	1	水質科

4	H29. 6. 28 ～29	第38回衛生微生物技術協議会総会・研究会	4	所 長 細菌科 ウイルス科
5	H29. 8. 22	第63回中国地区公衆衛生学会	1	所 長
6	H29. 9. 6	平成29年度瀬戸内海研究フォーラム	1	水質科
7	H29. 9. 6 ～8	第28回廃棄物資源循環学会研究発表会	1	水質科
8	H29. 9. 26 ～27	第20回日本水環境学会シンポジウム	1	水質科
9	H29. 10. 5 ～6	第38回日本食品微生物学会	1	細菌科
10	H29. 10. 23	ウイルス性下痢症研究会第29回学術集会	1	ウイルス科
11	H29. 10. 24 ～25	第65回日本ウイルス学会学術集会	1	ウイルス科
12	H29. 10. 31	第76回日本公衆衛生学会総会	1	所 長
13	R29. 11. 9 ～10	第113回日本食品衛生学会学術講演会	1	衛生化学科
14	H29. 11. 13 ～14	第44回環境保全・公害防止研究発表会	1	大気科
15	R29. 11. 21 ～22	第54回全国衛生化学技術協議会年会	1	衛生化学科
16	H30. 1. 22	第24回岡山県保健福祉学会	1	水質科
17	H30. 3. 15 ～17	第53回日本水環境学会年会	1	水質科

平成30年度

・長期技術研修

整理 番号	年月日	研修名	人員	参加	主催
1	H30. 5. 7 ～11	アスベスト分析研修	1	大気科	環境省環境調査研修所
2	H30. 5. 14 ～18	課題分析研修 I (プランクトン)	1	水質科	環境省環境調査研修所
3	H30. 6. 4 ～8	環境放射線測定の入門及び環境放射能分析 の入門	1	放射能科	(公財)日本分析センター

4	H30. 6. 4 ～15	機器分析研修 (Bコース)	1	大気科	環境省環境調査研修所
5	H30. 6. 5 ～15	機器分析研修 (Cコース)	1	水質科	環境省環境調査研修所
6	H30. 7. 23 ～8. 3	特定機器分析研修 I (ICP-MS)	1	大気科	環境省環境調査研修所
7	H30. 8. 28 ～31	環境モニタリング技術研修 (大気コース)	1	大気科	環境省環境調査研修所
8	H30. 9. 26 ～10. 4	ゲルマニウム半導体検出器による測定法	1	放射能科	(公財)日本分析センター
9	H30. 10. 1 ～5	特定機器分析研修 II (LC/MS/MS)	1	水質科	環境省環境調査研修所
10	H30. 10. 15 ～11. 2	ダイオキシン類環境モニタリング研修 (専門課程) 水質	1	水質科	環境省環境調査研修所
11	H30. 11. 5 ～22	国立保健医療科学院ウイルス研修	1	ウイルス科	国立保健医療科学院
12	H30. 11. 27 ～29	環境放射能分析研修「環境ガンマ線量率測定法」	1	放射能科	(公財)日本分析センター
13	H30. 12. 5 ～7	ラジウム-226分析に係る技術支援	1	放射能科	(公財)日本分析センター
14	H31. 2. 14 ～3. 1	大気分析研修 (Aコース)	1	大気科	環境省環境調査研修所
15	H31. 2. 26 ～3. 1	環境放射能分析研修「環境放射線モニタリングにおける線量評価法」	1	放射能科	(公財)日本分析センター

・学会等 (資料 8 掲載分を除く)

整理番号	年月日	学会名等	人員	参加
1	H30. 5. 22 ～25	第27回環境化学討論会	1	水質科
2	H30. 6. 15 ～17	第26回ダニと疾患のインターフェイスに関するセミナー	1	所 長 ウイルス科
3	H30. 7. 4	平成30年度地方衛生研究所現場の会・研究会	1	ウイルス科
4	H30. 7. 5	第39回衛生微生物技術協議会総会・研究会	4	所 長 細菌科 ウイルス科
5	H30. 8. 30	平成30年度瀬戸内海研究フォーラム	1	水質科
6	H30. 8. 21	第64回中国地区公衆衛生学会	1	所 長

7	H30. 9. 5 ～6	第21回日本水環境学会シンポジウム	1	水質科
8	H30. 9. 8 ～9	第1回SFTS研究会学術集会	1	所長 ウイルス科
9	H30. 9. 12 ～14	第59回大気環境学会年会	1	大気科
10	H30. 9. 12 ～14	第29回廃棄物資源循環学会研究発表会	1	水質科
11	H30. 9. 22	第36回日本クラミジア研究会学術集会	1	所長
12	H30. 9. 27 ～28	第39回日本食品微生物学会	1	細菌科
13	H30. 10. 17 ～18	全国環境衛生職員団体協議会	1	水質科
14	H30. 10. 24 ～25	第77回日本公衆衛生学会総会	2	所長 保健科学部
15	H30. 11. 15 ～16	第45回環境保全・公害防止研究発表会	1	水質科
16	H30. 11. 15 ～16	第114回日本食品衛生学会学術講演会	1	衛生化学科
17	H30. 11. 29 ～30	第55回全国衛生化学技術協議会年会	1	衛生化学科
18	H30. 12. 15 ～16	第25回リケッチア研究会・第11回日本リケッチア臨床研究会合同研究会	1	所長 ウイルス科
19	H31. 1. 21 ～22	平成30年度化学物質環境実態調査環境科学セミナー	2	水質科
20	H31. 2. 15	第34回全国環境研究所交流シンポジウム	1	水質科
21	H31. 3. 7 ～9	第54回日本水環境学会年会	1	水質科

令和元年度

・長期技術研修

整理番号	年月日	研修・講習会名	人員	参加	主催
1	R1. 5. 20 ～31	機器分析研修 (A コース)	1	大気科	環境省環境調査研修所
2	R1. 5. 20 ～31	機器分析研修 (C コース)	1	水質科	環境省環境調査研修所
3	R1. 5. 29 ～31	ウラン分析に係る技術支援	1	放射能科	(公財)日本分析センター

4	R1. 6. 3 ～7	環境放射能分析及び測定	1	放射能科	(公財)日本分析センター
5	R1. 6. 24 ～7. 12	ダイオキシン類環境モニタリング研修(基礎課程)	1	水質科	環境省環境調査研修所
6	R1. 7. 22 ～8. 2	特定機器分析研修Ⅰ(ICP-MS)	1	大気科	環境省環境調査研修所
7	R1. 9. 9 ～13	特定機器分析研修Ⅱ(LC/MS/MS)	1	水質科	環境省環境調査研修所
8	R1. 12. 2 ～6	環境ガンマ線量率測定法	1	放射能科	(公財)日本分析センター
9	R1. 12. 17 ～19	緊急時におけるガンマ線スペクトル解析法	1	放射能科	(公財)日本分析センター
10	R2. 1. 23 ～2. 7	大気分析研修(Bコース)	1	大気科	環境省環境調査研修所
11	R2. 2. 17 ～21	アスベスト分析研修	1	大気科	環境省環境調査研修所
12	R2. 2. 19 ～20	ウェスタンブロット講習会	1	衛生化学科	(株)森永生科学研究所

・学会等(資料8掲載分を除く)

整理番号	年月日	学会名等	人員	参加
1	R1. 6. 12 ～14	第28回環境化学討論会	1	水質科
2	R1. 7. 10 ～11	第40回衛生微生物技術協議会総会・研究会	4	所長 細菌科 ウイルス科
3	R1. 8. 23	第65回中国地区公衆衛生学会	4	所長 水質科 衛生化学科
4	R1. 9. 5	第43回瀬戸内海水環境研会議	1	水質科
5	R1. 9. 5 ～6	第22回日本水環境学会シンポジウム	1	水質科
6	R1. 9. 14	第2回SFTS研究会学術集会	1	ウイルス科
7	R1. 9. 18 ～20	第60回大気環境学会年会	1	大気科
8	R1. 9. 19 ～21	第30回廃棄物資源循環学会研究発表会	1	水質科
9	R1. 10. 3 ～4	第115回日本食品衛生学会学術講演会	1	衛生化学科

10	R1. 10. 23 ～25	第78回日本公衆衛生学会総会	1	所 長
11	R1. 10. 28	ウイルス性下痢症研究会第29回学術集会	1	ウイルス科
12	R1. 11. 14 ～15	第46回環境保全・公害防止研究発表会	1	大気科
13	R1. 12. 5 ～6	第56回全国衛生化学技術協議会年会	1	衛生化学科
14	R2. 1. 11 ～12	第26回リケッチア研究会・第12回日本リケッチア臨床研究会合同研究会	1	ウイルス科
15	R2. 1. 23 ～24	令和元年度化学物質環境実態調査環境科学セミナー	3	水質科
16	R2. 1. 27	第26回岡山県保健福祉学会	1	ウイルス科

講師派遣の実績

平成29年度

整理番号	年月日	研修・講習会名	演題	対象	担当科
1	H29. 4. 16	ボランティア研修会	ダニの危険性と対策	一般	所長
2	H29. 7. 1	蚊やダニによる感染症を防ぐために—私たちにできること—	蚊やダニによる感染症について	一般	所長
3	H29. 7. 10	レジオネラ症発生防止対策講習会	レジオネラ属菌について	事業者 行政担当者	細菌科
4	H29. 7. 11	レジオネラ症発生防止対策講習会	レジオネラ属菌について	事業者 行政担当者	細菌科
5	H29. 9. 21	岡山市立岡輝公民館主催講座「くらしの環境学」	知っておきたい！「PM2.5」について	一般	大気科
6	H29. 10. 11	倉敷市市民学習センター主催講座「知って予防！身近に潜む危険な野外の「ダニ」について学ぼう！」	ダニ媒介感染症とその予防法について	一般	所長
7	H29. 10. 22	人と動物の身近な感染症予防講習会	蚊、ダニが媒介する感染症への対策	医療関係者	所長
8	H29. 11. 20	平成29年度環境対策研修会	水質事故時の対応について	行政担当者	水質科
9	H29. 12. 10	環境保健センター・県立図書館連携講座「どんなもの？知っておきたい放射線」	県内の環境放射線の状況について	一般	放射能科
			はかってみよう！身の回りの放射線		
10	H29. 12. 11	岡山県エイズ出前講座	性感染症について	中学生	所長
11	H29. 12. 11	平成29年度エイズ対策研修会	岡山県におけるエイズと梅毒の発生動向について	医療関係者	所長
12	H30. 1. 17	岡山県エイズ出前講座	思春期の性の健康—10代の男女の付き合い方—	高校生	所長
13	H30. 2. 15	平成29年度岡山県環境関係職員研修会	水俣病の概要及びばい煙中における水銀の測定手法	行政担当者	大気科
14	H30. 2. 15	平成29年度岡山県環境関係職員研修会	水草と貝類による懸濁物の減少の検討について	行政担当者	水質科

15	H30. 3. 12	野谷学区愛育委員会学区会	ダニ媒介感染症について	一 般	所 長
16	H30. 3. 23	平成29年度第2回府中地区 医師会感染防止対策研修会	ダニ・蚊媒介感染症と、急増する梅毒等の性感染症について	医療関係者	所 長

平成30年度

整理番号	年月日	研修・講習会名	演題	対象	担当科
1	H30. 5. 21	平成30年度感染症講習会 「梅毒を学ぶ」	梅毒の基本的な知識～症状並びに診断・治療について～	医療関係者	所 長
2	H30. 5. 23	平成30年度感染症講習会 「梅毒を学ぶ」	梅毒の基本的な知識～症状並びに診断・治療について～	医療関係者	所 長
3	H30. 6. 6	平成30年度性教育講演会	性の健康を守ろう!!～人生をより輝かせるために～	高校生	所 長
4	H30. 6. 9	岡山市立妹尾公民館主催講座	水質の調査方法について	一 般	水質科
5	H30. 6. 20	岡山県エイズ出前講座	10代の男女の付き合い方～性の健康について～	高校生	所 長
6	H30. 6. 25	岡山県エイズ出前講座	性感染症について～人生を輝かせるために知って欲しいこと～	高校生	所 長
7	H30. 6. 30	環境保健センター・県立図書館連携講座	蚊やダニによる感染症を防ぐには — 私たちにできること —	一 般	所 長
8	H30. 12. 23	環境保健センター・県立図書館連携講座	岡山の気象と光化学オキシダント	一 般	大気科
9	H31. 2. 26	岡山県立研究機関協議会 第11回研究交流発表会	岡山県内における環境放射能バックグラウンド調査—ヨモギ—	行政担当者	放射能科

令和元年度

整理番号	年月日	研修・講習会名	演題	対象	担当科
1	H31. 4. 18	平成31年度中国ブロック合同GMP調査員研修	公的認定試験検査機関の業務について	行政担当者	衛生化学科
2	R1. 7. 8	レジオネラ症発生防止対策講習会	レジオネラ属菌について	事業者 行政担当者	細菌科
3	R1. 7. 20	環境保健センター・県立図書館連携講座	岡山県環境保健センターでの大腸菌検査について	一 般	細菌科

4	R1. 7. 30	令和元年度市町村職員の環境対策研修会	水質事故時の対応について	行政担当者	水質科
5	R1. 8. 4	環境保健センター・県立図書館連携講座	岡山県環境保健センター水質科のお仕事紹介	一般	水質科
6	R1. 8. 30	風しん・麻しん研修会	岡山県からの情報提供	医療関係者 行政担当者	ウイルス科
7	R1. 9. 11	感染症患者等移送ネットワークに係る感染症対策研修会	感染症の種類と感染防護について～ 一類感染症を中心に～	医療関係者 消防機関等 職員	所長 細菌科
8	R1. 10. 25	令和元年度放射線安全取扱部会年次大会	人形峠周辺環境放射線等測定結果について	一般	次長
9	R1. 12. 19	岡山県猟友会理事会	ダニ媒介感染症について	一般 行政担当者	ウイルス科
10	R2. 2. 6	令和元年度第2回岡山県・岡山市・倉敷市食品衛生監視員研修会	サルモネラ属菌に係る知見について	行政担当者	細菌科

イベント出展、所内見学の実績

平成29年度

整理番号	年月日	内 容	対 象	人 数	担 当 科
1	H29. 5. 10	業務概要説明、所内見学	警察官	17	各 科
2	H29. 7. 11	業務概要説明、所内見学	高校生	18	各 科
3	H29. 9. 9	児島湖ふれあい環境フェアへの出展（顕微鏡を用いた水中の微生物の観察、発電体験、パケットテスト、業務内容及び児島湖に係るパネルの展示）	一 般	数百	企画情報室 水質科
4	H30. 1. 19	業務概要説明、所内見学、衛生化学科講義	専門学校生	7	各 科
5	H30. 3. 11	児島湖花回廊さくらまつりにおける環境学習講座（顕微鏡を用いた水中の微生物の観察、パケットテストを用いた水質測定、児島湖の概要及び生活排水対策の説明）	一 般	数百	水質科

平成30年度

整理番号	年月日	内 容	対 象	人 数	担 当 科
1	H30. 9. 8	児島湖ふれあい環境フェアへの出展（顕微鏡を用いた水中の微生物の観察、発電体験、パケットテスト、児島湖に係るパネルの展示）	一 般	数百	企画情報室 水質科
2	H30. 10. 22	業務概要説明、所内見学	医療関係者	2	各 科
3	H30. 10. 30	業務概要説明、所内見学	高校生	20	各 科
4	H30. 12. 3	業務概要説明、所内見学	専門学校生	9	各 科
5	H31. 3. 17	児島湖花回廊さくらまつりにおける環境学習講座（顕微鏡を用いた水中の微生物の観察、パケットテストを用いた水質測定、児島湖の概要及び生活排水対策の説明）	一 般	数百	水質科

令和元年度

整理 番号	年 月 日	内 容	対 象	人 数	担 当 科
1	R1. 7. 5	所内見学、業務概要説明、食品検査に係る講義	専門学校生	10	各 科
2	R1. 9. 14	児島湖ふれあい環境フェアへの出展（顕微鏡を用いた水中の微生物の観察、発電体験、パルクテスト、児島湖に係るパネルの展示）	一 般	数百	企画情報室 水質科
3	R1. 9. 24	業務概要説明、所内見学	高校生	22	各 科
4	R1. 10. 3	業務概要説明、所内見学	一 般	37	各 科
5	R1. 10. 31	業務概要説明、所内見学	高校生	27	各 科